公益財団法人
神奈川産業振興センター

令和８年９月 18 日
記 者 発 表 資 料

業況 DI は 0.8 ポイントの上昇、4 期連続で上昇

～令和８年 7－9 月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。
令和８年 7－9 月期の調査結果をご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

１．調査結果（総合）特徴　～ **総合の業況 DI は上昇** ～

総合の業況 DI は、前期比 0.8 ポイント上昇の▲17.7 となりました。

また、今後については 3 か月後が現在比 4.4 ポイント低下の▲22.1、半年後は同 6.3 ポイント低下の▲24.0 を見込んでいます。

２．業種別特徴　～ **業況 DI、建設業、商業・サービス業で低下** ～

製造業の業況 DI は、前期比 3.7 ポイント上昇の▲8.4 となりました。中分類で見ると、一般機械（同 1.6 ポイント低下の▲13.6）は低下した一方で、電気機械（同 14.7 ポイント上昇の 5.6）と輸送用機械（同 2.1 ポイント上昇の 0.0）は上昇しました。

建設業の業況 DI は、前期比 0.1 ポイント低下の▲8.2 となりました。

商業・サービス業の業況 DI は、前期比 0.9 ポイント低下の▲26.3 となりました。内訳を見ると、卸売業（同 12.5 ポイント上昇の▲9.6）は上昇する一方、小売業（同 4.0 ポイント低下の▲38.0）、飲食店（同 13.8 ポイント低下の▲36.2）、サービス業（同 1.3 ポイント低下の▲17.2）は低下しました。

また、3 ヵ月後は製造業が現在比 1.0 ポイント低下の▲9.4、建設業が同 4.1 ポイント上昇の▲4.1、商業・サービス業が同 8.9 ポイント低下の▲35.2、半年後は製造業が同 0.3 ポイント上昇の▲8.1、建設業が同 1.6 ポイント上昇の▲6.6、商業・サービス業が同 12.8 ポイント低下の▲39.1 を見込んでいます。

３．規模別特徴　～ **小規模企業　すべての DI が上昇** ～

業況 DI は、中規模企業が前期比 0.4 ポイント低下の▲8.3、小規模企業は同 1.5 ポイント上昇の▲29.0 となりました。売上 DI は、中規模企業が前期比 2.3 ポイント上昇の▲0.2、小規模企業は同 1.8 ポイント上昇の▲19.1、採算 DI は中規模企業が前期比 0.5 ポイント低下の▲20.8、小規模企業が同 2.3 ポイント上昇の▲31.8 となり、小規模企業はすべての DI が上昇しました。

４．地区別特徴　　～　**業況 DI、５地区が上昇**　～

地区別の業況 DI では前期より上昇したのは 5 地区（横浜、平塚、藤沢、相模原、厚木）で、低下したのは 3 地区（川崎、横須賀、足柄上・西湘）でした。特に変化の大きかったのは足柄上・西湘地区（前期比 10.2 ポイント低下の▲26.7）でした。

3 ヵ月後は、現在比で 2 地区（相模原、足柄上・西湘）が上昇、1 地区（藤沢）で今期と同じ、5 地区（横浜、川崎、横須賀、平塚、厚木）で低下すると見込んでいます。

半年後は、現在比で 1 地区（足柄上・西湘）で上昇、7 地区（横浜、川崎、横須賀、平塚、藤沢、相模原、厚木）で低下を見込んでいます。

５．その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

～　**経営状況では「売上高」が上昇**　～

経営状況では、「売上高」が総合で前期比 2.4 ポイント上昇の▲8.7 となり、業種別では、製造業（同 9.3 ポイント上昇の 4.8）、建設業（同 23.5 ポイント上昇の▲2.5）が大きく上昇した一方、商業・サービス業（同 7.6 ポイント低下の▲19.3）は低下しました。

コメントでは、「今年 4 月以降の業績は比較的良い。先の見通しも決して悪くはないが、過大な期待はできない」「度重なる仕入価格の値上げによって、収益が悪化している」などの声が上がっていました。

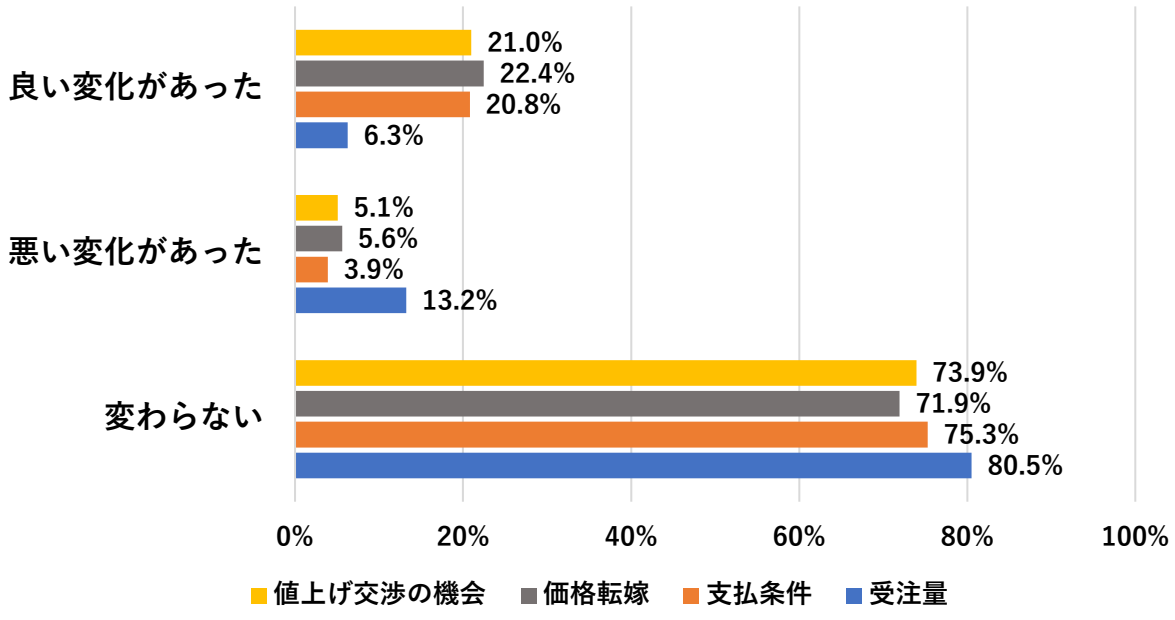
◇令和８年１月１日施行「中小受託取引適正化法（取適法）」の影響についての特別調査

１．全体的特徴

～　**取引環境への影響について、「変化があった」企業が約２割**　～

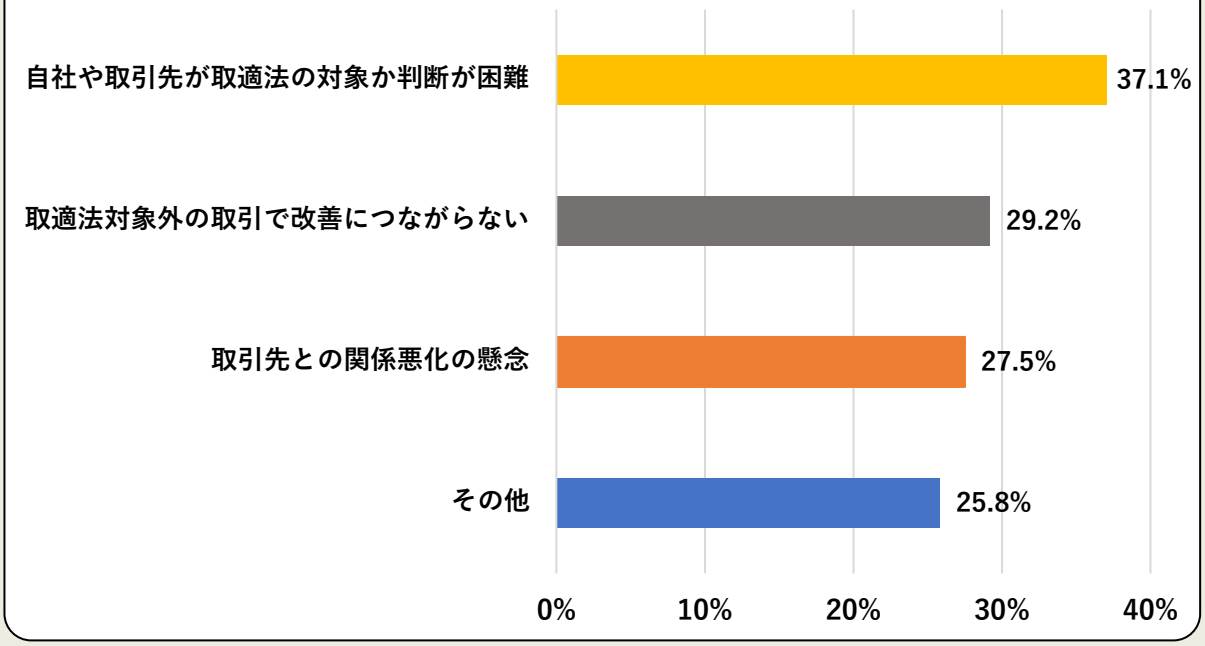
取適法の施行による取引環境の変化について調査を実施したところ、（図 1）のとおり、「値上げ交渉の機会」で 21.0%、「価格転嫁」で 22.4%、「支払条件」で 20.8%、「受注量」で 6.3%が「良い変化があった」との回答となりました。一方で、「値上げ交渉の機会」で 5.1%、「価格転嫁」で 5.6%、「支払条件」で 3.9%、「受注量」で 13.2%が「悪い変化があった」との回答となり、「受注量」に関しては、「悪い変化があった」と回答した割合が上回りました。

図1　取適法施行による取引環境の変化



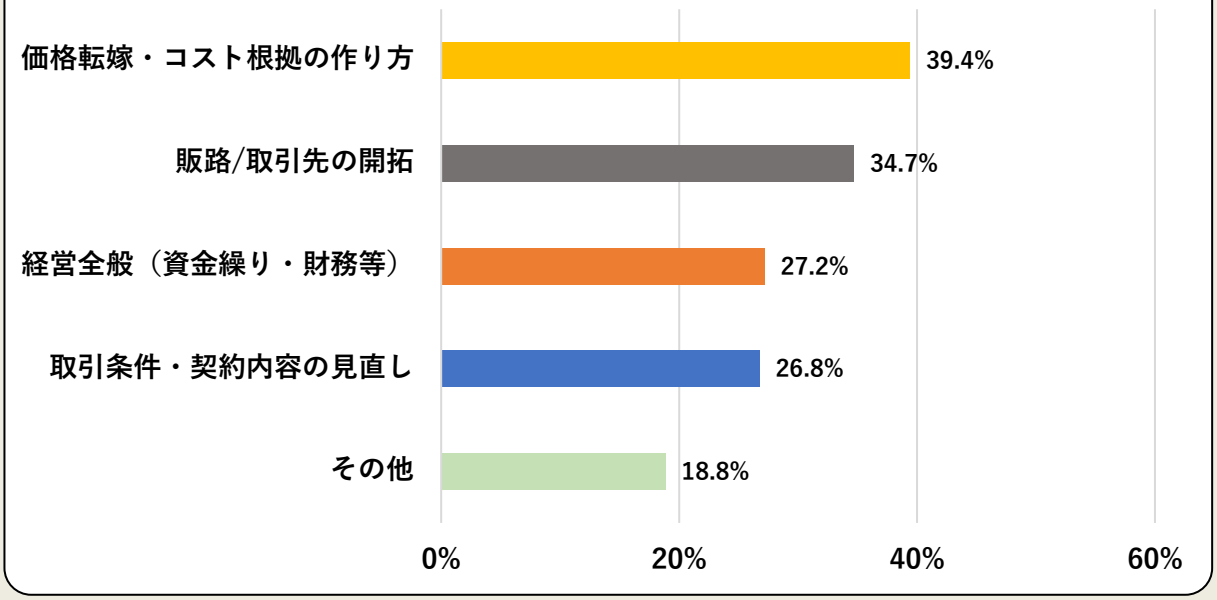
また、取適法施行後の取引環境において、感じている障壁や課題については、（図 2）のとおり、「自社や取引先が取適法の対象か判断が困難」が 37.1%、「取適法対象外の取引で改善につながらない」が 29.2%、「取引先との関係悪化の懸念」が 27.5%、「その他」が 25.8%となりました

図2　感じている障壁や課題　※複数回答



さらに、取引環境の改善に向けて、どのような支援策が必要かをたずねたところ、（図 3）のとおり、「価格転嫁・コスト根拠の作り方」が 39.4%で最も多く、次いで「販路/取引先の開拓」が 34.7%、「経営全般（資金繰り・財務等）」が 27.2%、「取引条件・契約内容の見直し」が 26.8%、「その他」が 18.8%となりました。

図3　必要な支援策　※複数回答



2．業種別特徴　～　**特に変化が大きいのは製造業**　～

業種別では、「良い変化があった」と回答した割合がもっとも多かったのは、（図 4-1～3）のとおり製造業で平均約 27.6%となり、次いで建設業が平均約 11.7%、商業・サービス業が平均約 8.0%となりました。なお、「受注量」に関してはいずれの業種も「悪い変化があった」と回答した割合が、「良い変化があった」と回答した割合を上回りました。

図4-1【業種別：製造業】取引環境の変化

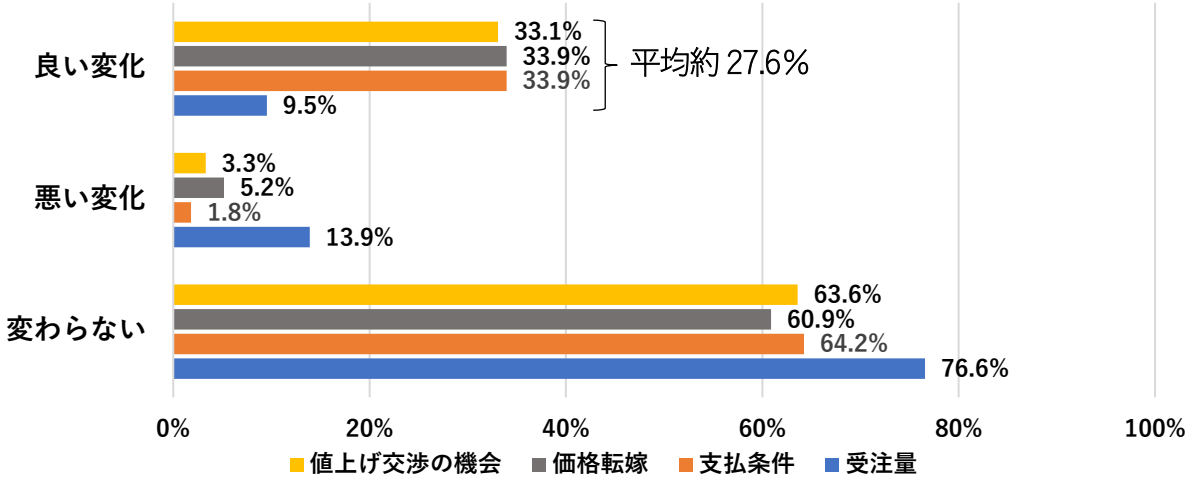


図4-2【業種別：建設業】取引環境の変化

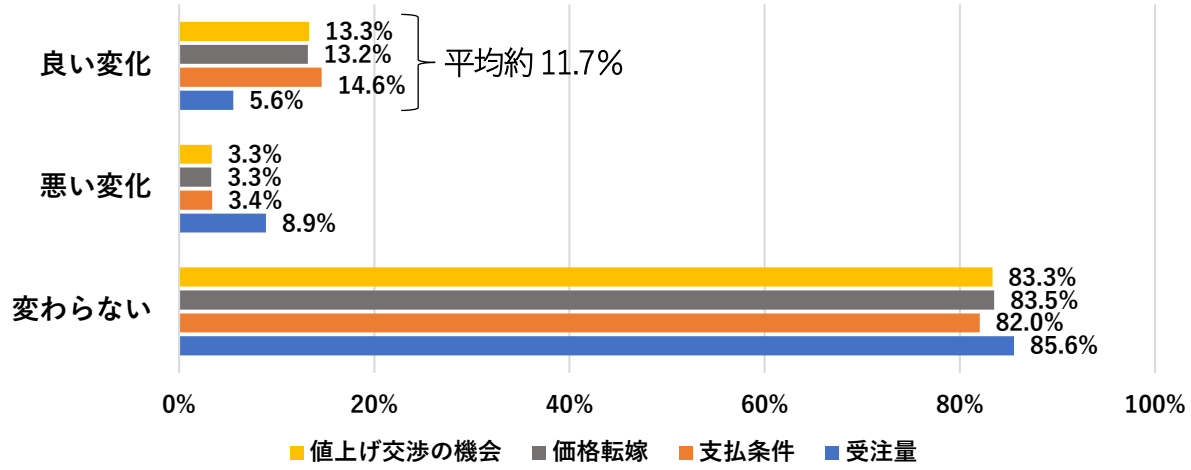
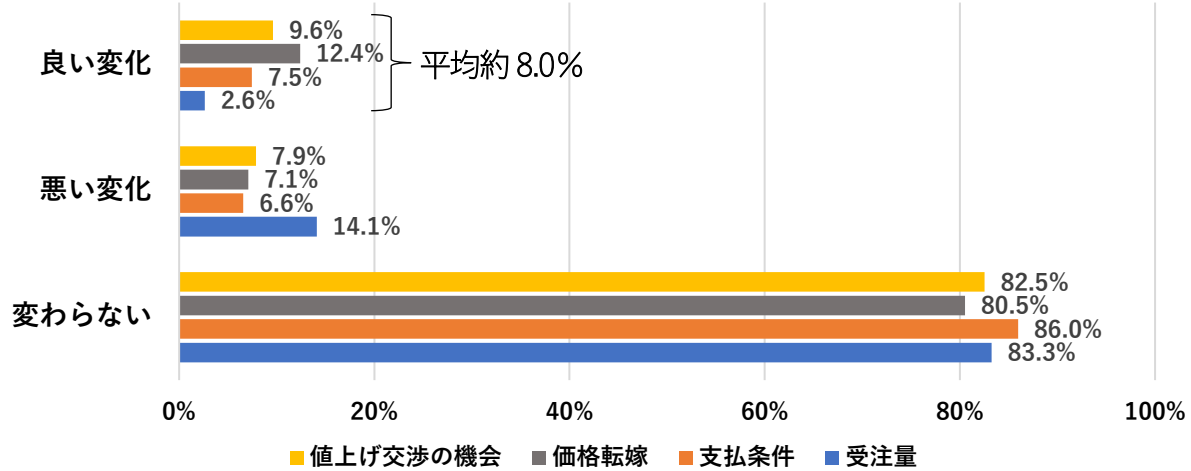
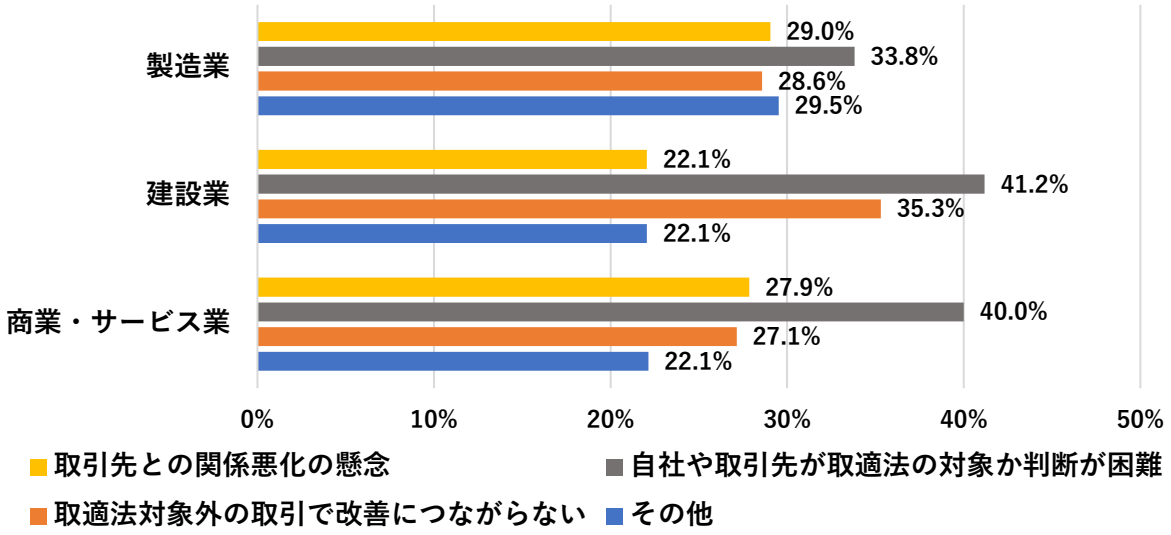


図4-3【業種別：商業・サービス業】取引環境の変化



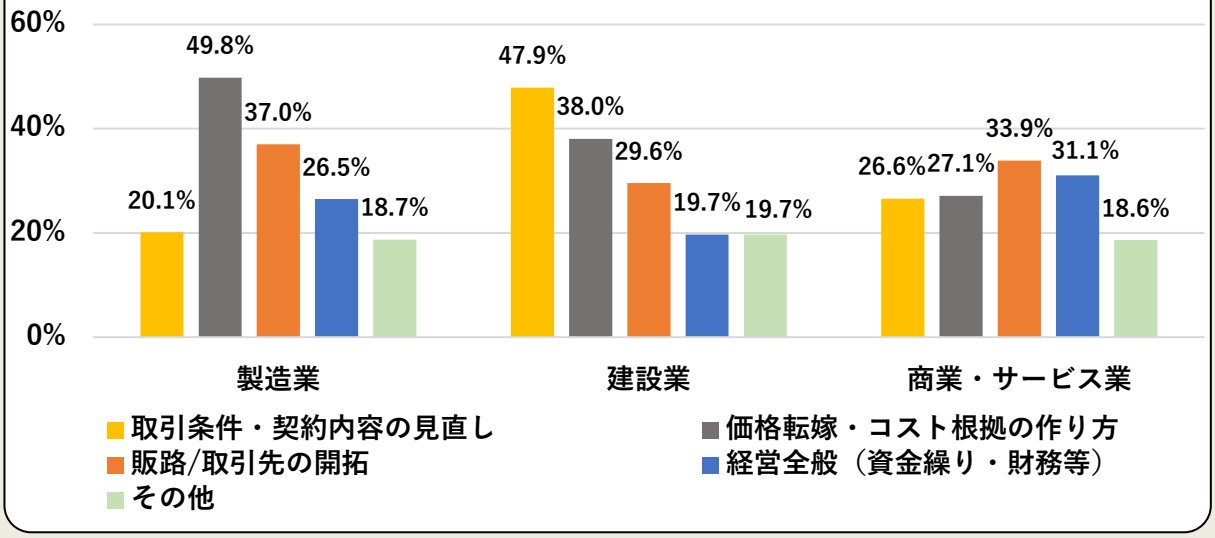
取適法施行後の取引環境において、感じている障壁や課題については、（図 5）のとおり、全業種とも「自社や取引先が取適法の対象か判断が困難」が最も多く、製造業では「その他」、建設業では「取適法対象外の取引で改善につながらない」、商業・サービス業では「取引先との関係悪化の懸念」が続きました。

図5　【業種別】感じている障壁や課題　※複数回答



また、取引環境の改善に向けて、必要な支援策については、（図 6）のとおり、製造業で「価格転嫁・コスト根拠の作り方」が 49.8%、建設業で「取引条件・契約内容の見直し」が 47.9%、商業・サービス業で「販路/取引先の開拓」が 33.9%となり、各業種にて異なるニーズが見られました。

図6　【業種別】必要な支援策　※複数回答



【調査要領】

調査時期：令和 8 年 8 月　　調査対象：県内中小企業 2,000 社　　回答数：904 社

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部企画広報課　佐川・徳田

TEL 045-633-5101／FAX 045-633-5018

URL https://www.kipc.or.jp／E-mail kikaku@kipc.or.jp

公益財団法人 神奈川産業振興センター
Kanagawa Industrial Promotion Center

令和8年7-9月期中小企業景気動向調査結果

１．調査要領

・調 査 時 期：令和8年8月
・調 査 対 象：神奈川県内中小企業2,000社
・回答数（率）：904社（45.2%）　　※詳細は下記のとおり
・調 査 方 法：調査対象へ郵送、およびメール
・分 析 方 法：DI（Diffusion Index）※による分析
※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	311	56.5％
建設業	250	122	48.8％
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	471	39.3％
合計	2,000	904	45.2％

２．調査結果

（１）総合

	令和7年	令和8年				令和9年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲23.1	▲20.5	▲18.5	▲17.7	▲22.1	▲24.0
売上DI	▲9.2	▲15.8	▲11.1	▲8.7	―	―
採算DI	▲23.2	▲22.9	▲26.8	▲25.8	―	―

総合の業況DIは、前期比0.8ポイント上昇の▲17.7となった。
経営状況では、売上DIは前期比2.4ポイント上昇の▲8.7、また、採算DIは同1.0ポイント上昇の▲25.8となった。
今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比4.4ポイント低下の▲22.1、半年後は同6.3ポイント低下の▲24.0を見込んでいる。

（２）業種別特徴

＜製造業＞

	令和7年	令和8年				令和9年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲17.4	▲15.7	▲12.1	▲8.4	▲9.4	▲8.1
売上DI	▲0.3	▲9.6	▲4.5	4.8	―	―
採算DI	▲12.9	▲19.7	▲18.5	▲13.8	―	―

製造業の今期の業況DIは、前期比3.7ポイント上昇の▲8.4となった。

経営状況では、売上DIは、前期比9.3ポイント上昇の4.8、採算DIは同4.7ポイント上昇の▲13.8となった。

「半導体関連が需要増加しています」「業績は伸びているが、人材不足が深刻」「やや引き合いが活発化してきたが、景気回復の前ぶれなのか、見極めできない」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比1.0ポイント低下の▲9.4、半年後は同0.3ポイント上昇の▲8.1を見込んでおり、「今年4月以降の業績は比較的良い。先の見通しも決して悪くはないが、過大な期待はできない」「前期は材料価格も高騰して材料不足により売上、利益が減少した。徐々に材料不足も回復しているがまだ先行きが見えない状態」「メインユーザー様の生産量増加に伴い、受注量が増える傾向にあります。これは当面継続する見込みです」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下のとおり。

	令和7年	令和8年				令和9年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期見込	1-3月期見込
一般機械	▲15.3	▲8.3	▲12.0	▲13.6	▲8.8	▲2.5
電気機械	▲8.5	▲9.6	▲9.1	5.6	4.2	5.6
輸送用機械	▲6.1	0.0	▲2.1	0.0	▲8.7	▲10.9
その他	▲29.1	▲31.9	▲17.8	▲16.8	▲18.9	▲19.8

中分類で見ると、一般機械は前期比1.6ポイント低下の▲13.6、電気機械は同14.7ポイント上昇の5.6、 輸送用機械は同2.1ポイント上昇の0.0となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比4.8ポイント上昇の▲8.8、電気機械が同1.4ポイント低下の4.2、輸送用機械は同8.7ポイント低下の▲8.7、半年後は一般機械が同11.1ポイント上昇の▲2.5、電気機械が今期と同じ5.6、輸送用機械は同10.9ポイント低下の▲10.9を見込んでいる。

＜建設業＞

	令和7年	令和8年				令和9年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期見込	1-3月期見込
業況DI	▲2.6	▲2.5	▲8.1	▲8.2	▲4.1	▲6.6
売上DI	▲1.8	1.7	▲26.0	▲2.5	―	―
採算DI	▲16.1	▲10.8	▲27.6	▲15.6	―	―

建設業の今期の業況DIは、前期比0.1ポイント低下の▲8.2となった。

経営状況では、売上DIは前期比23.5ポイント上昇の▲2.5、採算DIは同12.0ポイント上昇の▲15.6となった。

「官庁工事が順調に受注出来ているので今年度は良いと思います」「材料等、人件費も上乗せして販売ができている。不採算の顧客は断ってしまいました」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比4.1ポイント上昇の▲4.1、半年後は同1.6ポイント上昇の▲6.6を見込んでおり、「今後についても良好」「原材料やガソリン価格高騰、賃金上昇圧力などで先が見通せない。公共工事の受注の見通しが難しい」といった声も聞かれた。

＜商業・サービス業＞

	令和7年	令和8年				令和9年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期見込	1-3月期見込
業況DI	▲32.0	▲28.5	▲25.4	▲26.3	▲35.2	▲39.1
売上DI	▲17.2	▲24.4	▲11.7	▲19.3	―	―
採算DI	▲32.2	▲28.1	▲32.0	▲36.3	―	―

商業・サービス業の業況DIは、前期比0.9ポイント低下の▲26.3となった。

経営状況では、売上DIは前期比7.6ポイント低下の▲19.3、採算DIは同4.3ポイント低下の▲36.3となった。「商品の値上げなどで、負担に感じるお客様の足が遠のいている」「天候不順で特に雨や暑い日は売上減少する」「商品価格値上げにより、商品のランクダウンが起きている」「仕入れ高の高騰と人件費の高騰を価格転嫁することが頻繁になり、客離れが心配です」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比8.9ポイント低下の▲35.2、半年後は同12.8ポイント低下の▲39.1を見込んでいる。「イラン情勢の影響で、材料不足と価格高騰が続いています。中東情勢が収まるまでは、このような状況が続くと思います」「肉、酒、その他、値上げが止まらないので、見通しが立たない」「円安で仕入価格が高くなり、客数は変わらないが、客単価が下がって売上が減っている。物価高が今後も続くと思う」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下のとおり。

	令和7年	令和8年				令和9年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期見込	1-3月期見込
卸売業	▲33.7	▲30.8	▲22.1	▲9.6	▲26.9	▲33.3
小売業	▲41.5	▲39.2	▲34.0	▲38.0	▲49.2	▲52.2
飲食店	▲27.7	▲31.7	▲22.4	▲36.2	▲36.2	▲39.0
サービス業	▲18.5	▲9.4	▲15.9	▲17.2	▲20.3	▲24.2

業種別では、卸売業は前期比12.5ポイント上昇の▲9.6、小売業は同4.0ポイント低下の▲38.0、飲食店は同13.8ポイント低下の▲36.2、サービス業は同1.3ポイント低下の▲17.2となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比17.3ポイント低下の▲26.9、小売業は同11.2ポイント低下の▲49.2、飲食店は今期と同じ▲36.2、サービス業は同3.1ポイント低下の▲20.3、半年後では卸売業が同23.7ポイント低下の▲33.3、小売業は同14.2ポイント低下の▲52.2、飲食店は同2.8ポイント低下の▲39.0、サービス業は同7.0ポイント低下の▲24.2を見込んでいる。

（３）規模別特徴

		令和7年	令和8年				令和9年
		10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期見込	1-3月期見込
中規模	業況DI	▲18.0	▲11.0	▲7.9	▲8.3	▲13.6	▲16.9
	売上DI	▲1.5	▲6.3	▲2.5	▲0.2	―	―
	採算DI	▲20.0	▲15.2	▲20.3	▲20.8	―	―
小規模	業況DI	▲28.9	▲31.5	▲30.5	▲29.0	▲32.4	▲32.8
	売上DI	▲18.0	▲26.5	▲20.9	▲19.1	―	―
	採算DI	▲27.0	▲31.6	▲34.1	▲31.8	―	―

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比0.4ポイント低下の▲8.3、小規模企業は同1.5ポイント上昇の▲29.0となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比2.3ポイント上昇の▲0.2、採算DIが同0.5ポイント低下の▲20.8、小規模企業は売上DIが同1.8ポイント上昇の▲19.1、採算DIが同2.3ポイント上昇の▲31.8となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比5.3ポイント低下の▲13.6、半年後が同8.6ポイント低下の▲16.9、小規模企業は3か月後が同3.4ポイント低下の▲32.4、半年後が同3.8ポイント低下の▲32.8を見込んでいる。

（４）地区別特徴（業況DI）

	令和7年	令和8年				令和9年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期見込	1-3月期見込
横浜	▲24.3	▲18.5	▲21.4	▲16.2	▲24.2	▲25.4
川崎	▲17.9	▲10.5	▲12.8	▲15.0	▲17.3	▲18.9
横須賀	▲29.2	▲15.9	▲18.1	▲18.8	▲29.4	▲31.0
平塚	▲27.4	▲27.4	▲26.7	▲24.0	▲31.3	▲32.3
藤沢	▲17.0	▲23.0	▲16.2	▲15.6	▲15.6	▲17.7
相模原	▲28.0	▲21.5	▲25.6	▲22.8	▲19.0	▲29.1
厚木	▲21.9	▲20.8	▲10.4	▲6.5	▲16.3	▲14.3
足柄上・西湘	▲19.8	▲32.6	▲16.5	▲26.7	▲22.2	▲24.4

今期の地区別の業況DIは、
横浜地区（前期比5.2ポイント上昇の▲16.2）、川崎地区（同2.2ポイント低下の▲15.0）、
横須賀地区（同0.7ポイント低下の▲18.8）、平塚地区（同2.7ポイント上昇の▲24.0）、
藤沢地区（同0.6ポイント上昇の▲15.6）、相模原地区（同2.8ポイント上昇の▲22.8）、
厚木地区（同3.9ポイント上昇の▲6.5）、足柄上・西湘地区（同10.2ポイント低下の
▲26.7）となり5地区で上昇し、3地区で低下となった。
今後の業況DIは、3か月後は、
横浜地区（現在比8.0ポイント低下の▲24.2）、川崎地区（同2.3ポイント低下の▲17.3）、
横須賀地区（同10.6ポイント低下の▲29.4）、平塚地区（同7.3ポイント低下の▲31.3）、
藤沢地区（今期と同じ▲15.6）、相模原地区（同3.8ポイント上昇の▲19.0）、
厚木地区（同9.8ポイント低下の▲16.3）、足柄上・西湘地区（同4.5ポイント上昇の
▲22.2）となり2地区で上昇し、1地区で今期と同じ、5地区で低下すると見込んでいる。
半年後は、
横浜地区（現在比9.2ポイント低下の▲25.4）、川崎地区（同3.9ポイント低下の▲18.9）、
横須賀地区（同12.2ポイント低下の▲31.0）、平塚地区（同8.3ポイント低下の▲32.3）、
藤沢地区（同2.1ポイント低下の▲17.7）、相模原地区（同6.3ポイント低下の▲29.1）、
厚木地区（同7.8ポイント低下の▲14.3）、足柄上・西湘地区（同2.3ポイント上昇の
▲24.4）となり1地区で上昇し、7地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先
（公財）神奈川産業振興センター（KIP）
（Kanagawa Industrial Promotion Center）
総務部　企画広報課　佐川・徳田
TEL:045-633-5101　FAX:045-633-5018
URL https://www.kipc.or.jp/　E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査　（令和8年7月～9月期）

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	ｻｰﾋﾞｽ業	小計	
回収数		311	122	94	189	59	129	471	904
業況判断	現在の業況	▲8.4	▲8.2	▲9.6	▲38.0	▲36.2	▲17.2	▲26.3	▲17.7
	３ヶ月後の業況	▲9.4	▲4.1	▲26.9	▲49.2	▲36.2	▲20.3	▲35.2	▲22.1
	半年後の業況	▲8.1	▲6.6	▲33.3	▲52.2	▲39.0	▲24.2	▲39.1	▲24.0
経営状況	売上	4.8	▲2.5	▲3.2	▲33.3	▲13.6	▲13.2	▲19.3	▲8.7
	採算	▲13.8	▲15.6	▲22.3	▲50.3	▲50.8	▲19.4	▲36.3	▲25.8
	引き合い／客数	9.4	3.3	▲9.7	▲48.9	▲30.5	▲14.8	▲29.5	▲11.7
	単価	31.5	27.9	20.2	▲4.3	▲1.7	16.3	6.6	18.1
	仕入価格	▲78.8	▲84.4	▲81.9	▲81.9	▲91.5	▲68.8	▲79.5	▲79.9
	資金繰り	▲18.6	▲9.8	▲9.6	▲36.5	▲49.2	▲24.8	▲29.5	▲23.1
	残業	6.8	▲9.8	▲8.7	▲12.4	▲15.5	▲13.3	▲12.3	▲5.4
	設備稼働	3.5	▲9.9	－	－	－	－	－	▲0.2
前期経営実績	売上水準	2.6	▲14.8	▲6.4	▲28.0	▲25.4	▲20.2	▲21.2	▲12.2
	利益水準	17.1	7.4	19.1	▲17.1	▲16.9	▲4.7	▲6.4	3.6
	在庫	5.1	▲2.5	11.8	1.6	10.3	▲5.7	2.8	2.9
	投資	▲3.5	▲1.7	▲11.0	▲16.2	▲15.8	▲4.9	▲12.1	▲7.7
	雇用状況	▲28.3	▲53.3	▲26.1	▲19.4	▲50.0	▲32.8	▲28.2	▲31.7

参考＜前回調査＞　景気動向調査　（令和8年4月～6月期）

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	ｻｰﾋﾞｽ業	小計	
回収数		314	123	95	194	58	126	473	910
業況判断	現在の業況	▲12.1	▲8.1	▲22.1	▲34.0	▲22.4	▲15.9	▲25.4	▲18.5
	３ヶ月後の業況	▲21.7	▲26.0	▲36.6	▲49.2	▲24.1	▲25.6	▲37.3	▲30.4
	半年後の業況	▲24.7	▲27.0	▲32.3	▲48.4	▲28.1	▲30.4	▲37.9	▲31.9
経営状況	売上	▲4.5	▲26.0	▲6.3	▲16.7	▲5.2	▲11.1	▲11.7	▲11.1
	採算	▲18.5	▲27.6	▲21.1	▲42.0	▲43.1	▲19.8	▲32.0	▲26.8
	引き合い／客数	▲4.1	▲9.8	▲13.8	▲33.7	▲29.3	▲7.1	▲22.1	▲14.2
	単価	24.9	33.6	15.8	▲9.3	3.4	13.6	3.4	14.9
	仕入価格	▲79.3	▲85.4	▲75.8	▲83.4	▲86.2	▲68.5	▲78.3	▲79.6
	資金繰り	▲17.6	▲13.8	▲23.2	▲33.0	▲36.2	▲20.2	▲28.0	▲22.5
	残業	▲3.5	▲9.8	▲13.7	▲10.5	▲14.0	▲6.4	▲10.5	▲8.0
	設備稼働	▲5.4	▲5.7	－	－	－	－	－	▲5.5
前期経営実績	売上水準	▲1.3	9.8	▲7.4	▲28.9	▲14.0	▲11.1	▲18.0	▲8.5
	利益水準	16.0	30.1	12.6	▲17.1	▲20.7	6.3	▲5.3	6.8
	在庫	7.3	▲0.8	8.4	2.1	1.7	▲6.6	1.1	3.0
	投資	▲2.9	▲4.9	▲10.8	▲14.7	▲13.8	▲9.8	▲12.5	▲8.1
	雇用状況	▲21.9	▲46.3	▲20.0	▲20.0	▲34.5	▲34.7	▲25.7	▲27.2

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		161	150	62	60	272	199	495	409
業況判断	現在の業況	▲5.6	▲11.3	8.1	▲25.0	▲13.7	▲43.7	▲8.3	▲29.0
	３ヶ月後の業況	▲3.1	▲16.2	9.7	▲18.3	▲25.2	▲49.0	▲13.6	▲32.4
	半年後の業況	▲2.5	▲14.2	3.2	▲16.9	▲30.0	▲51.5	▲16.9	▲32.8
経営状況	売上	12.4	▲3.3	12.9	▲18.3	▲10.7	▲31.2	▲0.2	▲19.1
	採算	▲8.7	▲19.3	▲6.5	▲25.0	▲31.3	▲43.2	▲20.8	▲31.8
	引き合い／客数	14.3	4.0	19.4	▲13.3	▲21.2	▲40.7	▲4.5	▲20.3
	単価	37.9	24.7	38.7	16.7	13.2	▲2.5	24.4	10.3
	仕入価格	▲77.0	▲80.7	▲80.6	▲88.3	▲78.9	▲80.4	▲78.5	▲81.7
	資金繰り	▲14.3	▲23.3	▲3.2	▲16.7	▲24.6	▲36.2	▲18.6	▲28.6
	残業	9.3	4.0	▲12.9	▲6.7	▲11.5	▲13.4	▲4.9	▲5.9
	設備稼働	3.7	3.3	▲4.8	▲15.3	－	－	1.3	▲1.9
前期経営実績	売上水準	9.3	▲4.7	▲3.2	▲26.7	▲11.8	▲34.2	▲3.8	▲22.2
	利益水準	26.3	7.3	24.2	▲10.0	5.5	▲22.7	14.6	▲9.8
	在庫	9.3	0.7	▲3.3	▲1.7	2.3	3.6	3.9	1.7
	投資	0.6	▲8.0	1.6	▲5.1	▲8.7	▲16.8	▲4.3	▲11.8
	雇用状況	▲34.2	▲22.0	▲61.3	▲45.0	▲33.5	▲21.0	▲37.2	▲24.9

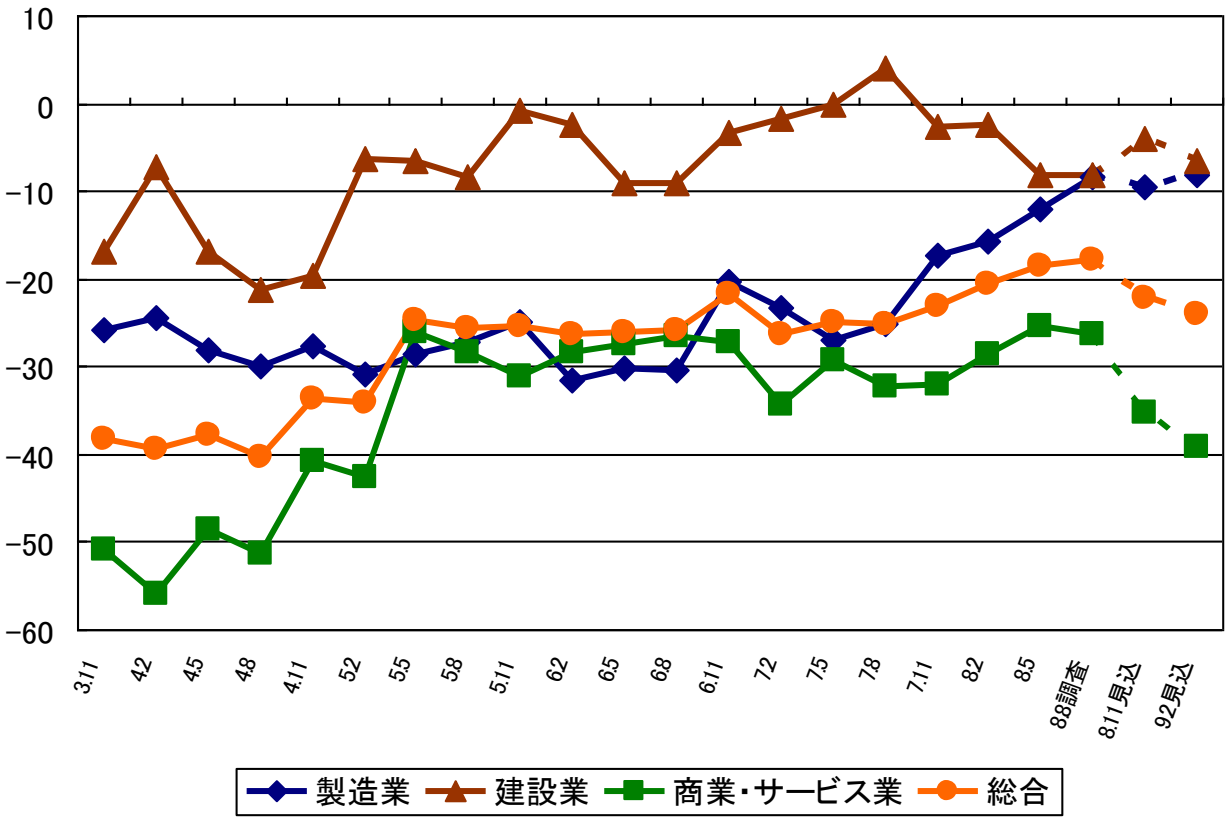
地区別DI表

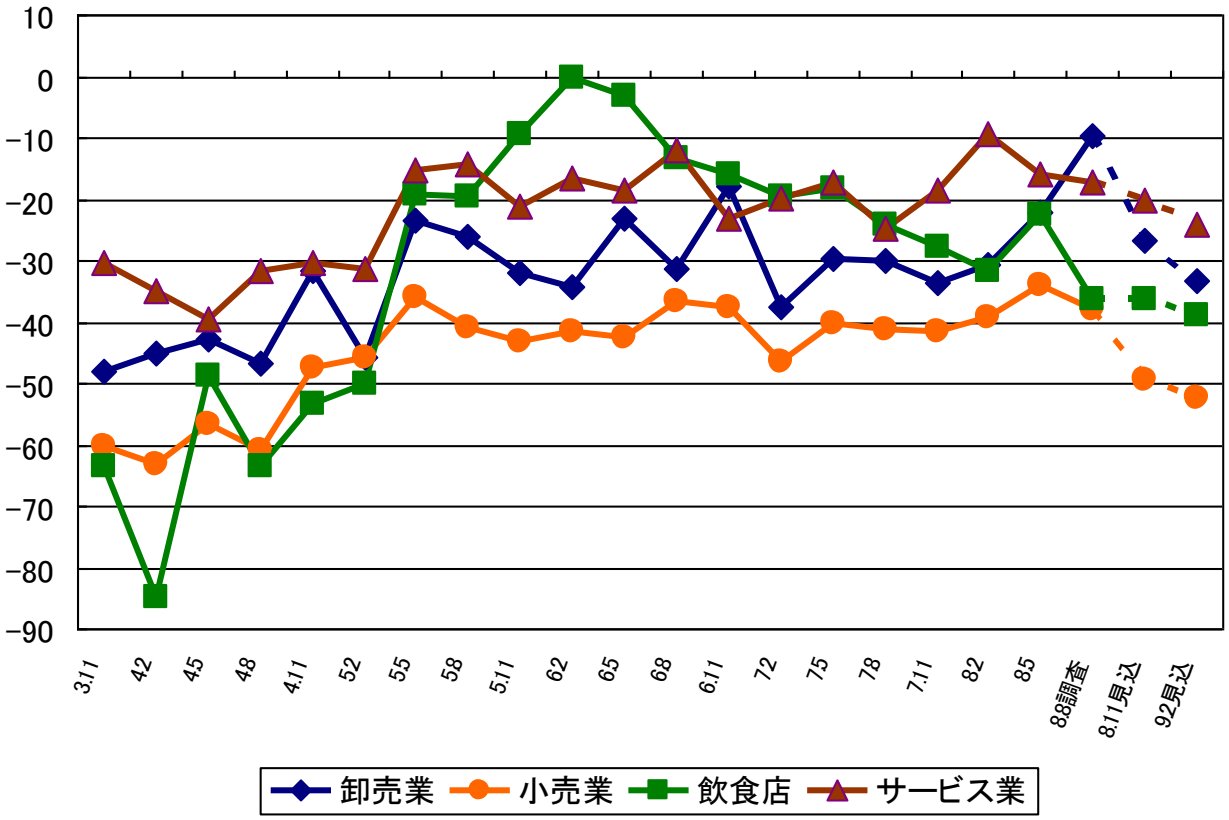
		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		237	129	85	96	96	79	92	90	904
業況判断	現在の業況	▲16.2	▲15.0	▲18.8	▲24.0	▲15.6	▲22.8	▲6.5	▲26.7	▲17.7
	３ヶ月後の業況	▲24.2	▲17.3	▲29.4	▲31.3	▲15.6	▲19.0	▲16.3	▲22.2	▲22.1
	半年後の業況	▲25.4	▲18.9	▲31.0	▲32.3	▲17.7	▲29.1	▲14.3	▲24.4	▲24.0
経営状況	売上	▲15.6	▲8.5	▲12.9	▲13.5	▲2.1	1.3	▲3.3	▲3.3	▲8.7
	採算	▲30.8	▲19.4	▲25.9	▲31.3	▲21.9	▲16.5	▲17.4	▲36.7	▲25.8
	引き合い／客数	▲17.0	▲13.2	▲15.3	▲19.8	▲5.2	▲2.5	3.3	▲13.5	▲11.7
	単価	13.1	21.7	20.0	20.8	29.2	13.9	16.3	14.4	18.1
	仕入価格	▲78.0	▲83.7	▲77.4	▲78.1	▲87.5	▲84.8	▲73.9	▲77.8	▲79.9
	資金繰り	▲21.1	▲18.6	▲16.5	▲33.3	▲21.9	▲31.6	▲20.7	▲26.7	▲23.1
	残業	▲8.9	▲5.5	▲14.1	5.3	▲5.2	1.3	▲4.4	▲5.6	▲5.4
	設備稼働	▲3.7	▲9.5	▲16.7	4.9	2.1	12.0	13.2	▲5.3	▲0.2
前期経営実績	売上水準	▲11.0	▲7.8	▲15.3	▲17.7	▲7.3	▲17.7	▲6.5	▲18.9	▲12.2
	利益水準	5.9	3.1	1.2	5.2	8.4	▲3.8	11.0	▲7.9	3.6
	在庫	1.3	4.0	1.2	6.3	0.0	2.6	1.1	8.9	2.9
	投資	▲6.6	▲5.6	▲7.2	▲6.3	▲11.5	▲3.8	▲13.2	▲9.0	▲7.7
	雇用状況	▲33.0	▲38.8	▲35.3	▲18.9	▲29.2	▲37.2	▲31.5	▲25.8	▲31.7

製造業中分類別DI表

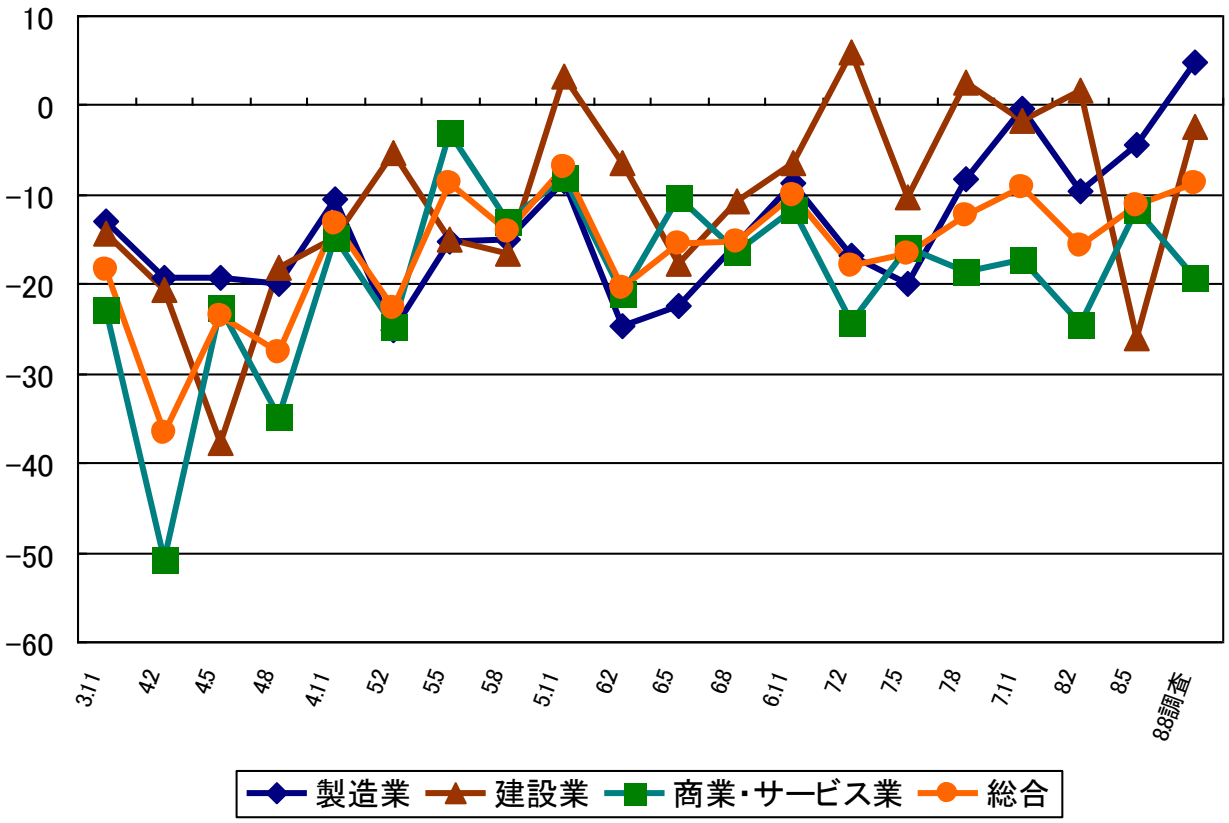
		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		81	71	46	113	311
業況判断	現在の業況	▲13.6	5.6	0.0	▲16.8	▲8.4
	３ヶ月後の業況	▲8.8	4.2	▲8.7	▲18.9	▲9.4
	半年後の業況	▲2.5	5.6	▲10.9	▲19.8	▲8.1
経営状況	売上	▲6.2	25.4	26.1	▲8.8	4.8
	採算	▲13.6	4.2	▲19.6	▲23.0	▲13.8
	引き合い／客数	12.3	22.5	13.0	▲2.7	9.4
	単価	27.2	39.4	34.8	28.3	31.5
	仕入価格	▲79.0	▲76.1	▲78.3	▲80.5	▲78.8
	資金繰り	▲22.2	▲14.1	▲19.6	▲18.6	▲18.6
	残業	8.6	7.0	15.2	1.8	6.8
	設備稼働	4.9	12.7	8.7	▲5.3	3.5
前期経営実績	売上水準	3.7	7.0	6.5	▲2.7	2.6
	利益水準	12.3	19.7	30.4	13.4	17.1
	在庫	4.9	9.9	2.2	3.5	5.1
	投資	▲2.5	▲9.9	4.3	▲3.5	▲3.5
	雇用状況	▲38.3	▲23.9	▲26.1	▲24.8	▲28.3

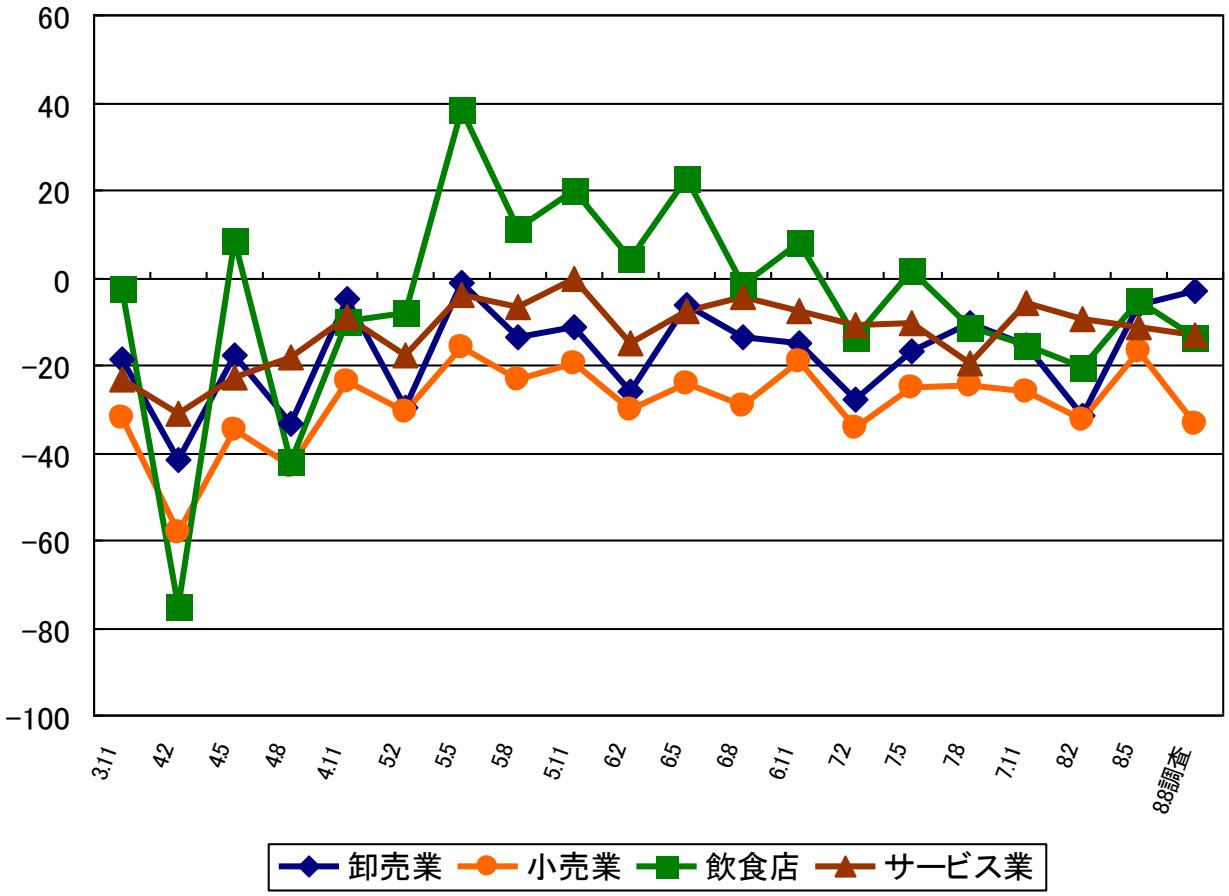
業況DIの推移


10
0
−10
−20
−30
−40
−50
−60
3.11
42
45
48
4.11
52
55
58
5.11
62
65
68
6.11
72
75
78
7.11
82
85
88調査
8.11見込
92見込
製造業
建設業
商業・サービス業
総合

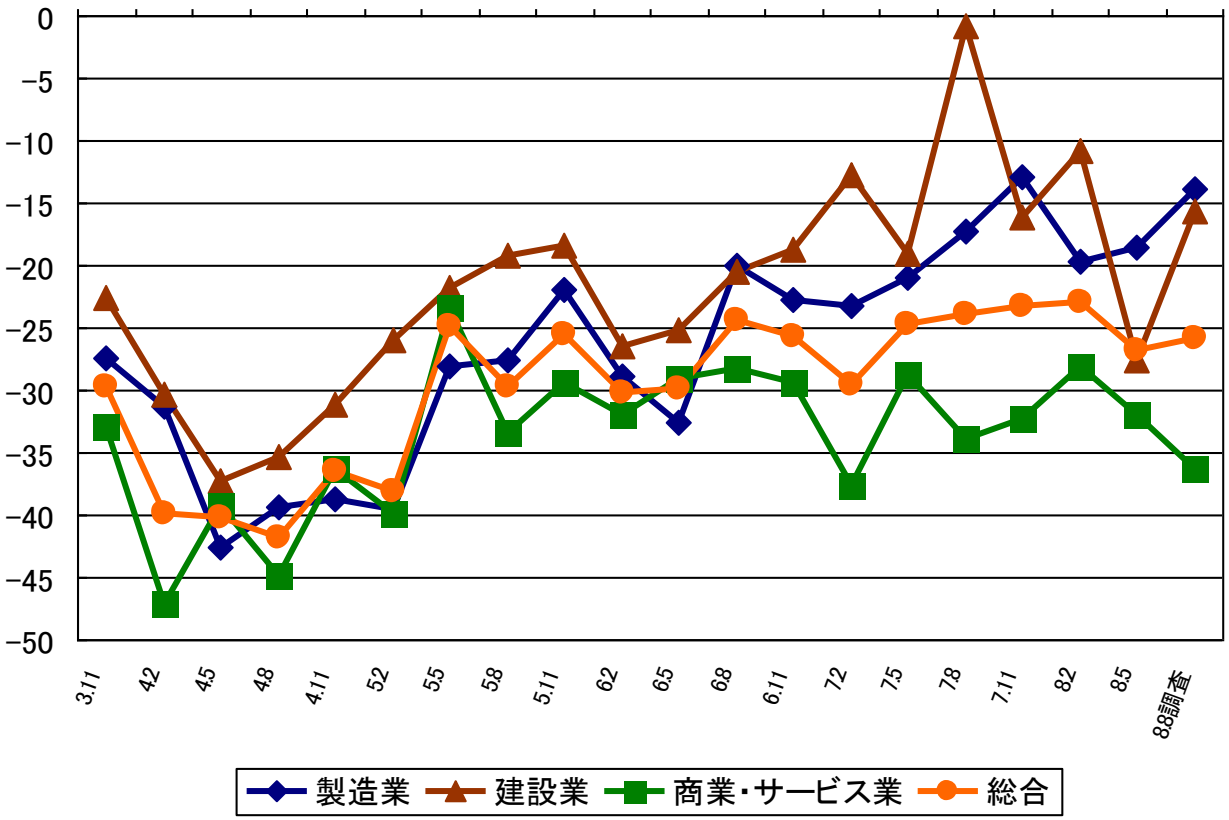

10
0
−10
−20
−30
−40
−50
−60
−70
−80
−90
3.11
42
45
48
4.11
52
55
58
5.11
62
65
68
6.11
72
75
78
7.11
82
85
88調査
8.11見込
92見込
卸売業
小売業
飲食店
サービス業

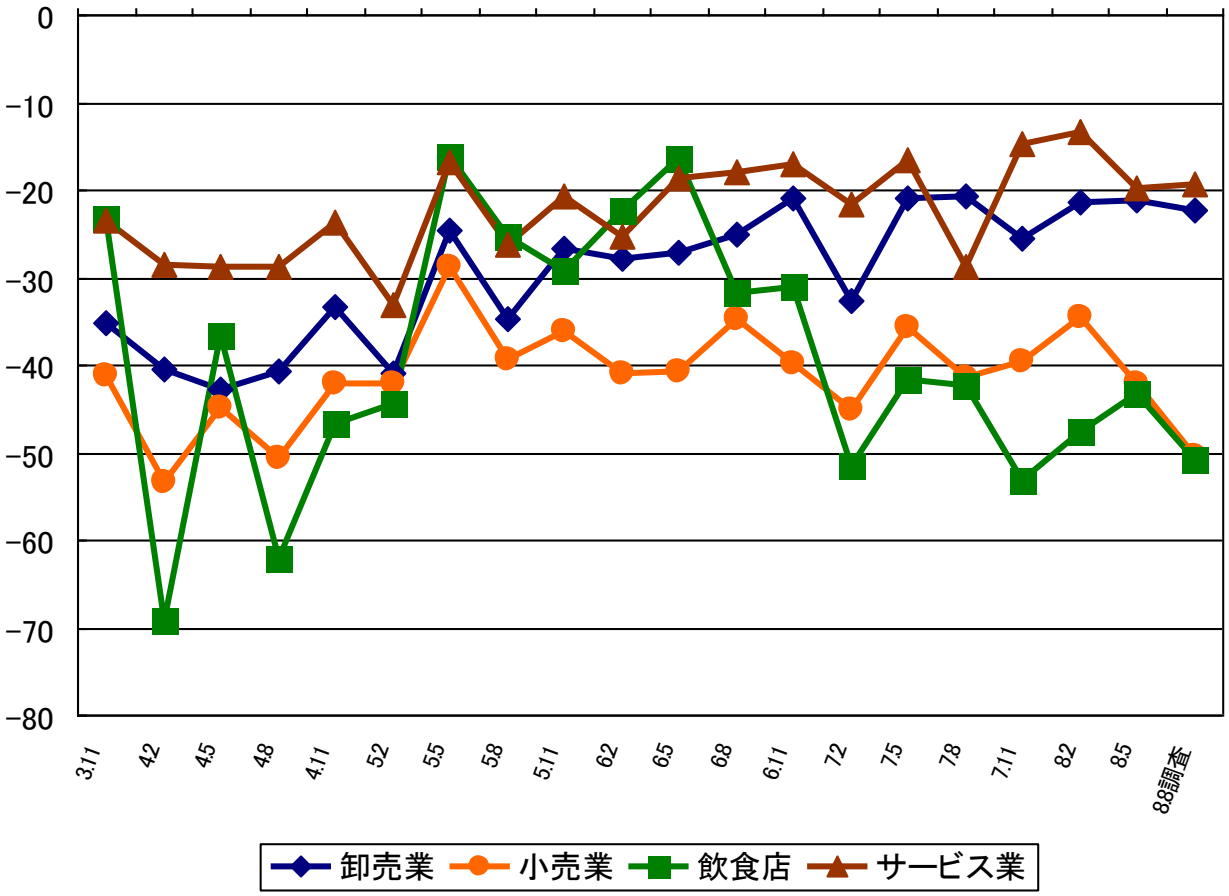
売上DIの推移


10
0
−10
−20
−30
−40
−50
−60
3.11
42
45
48
4.11
52
55
58
5.11
62
65
68
6.11
72
75
78
7.11
82
85
88調査
製造業
建設業
商業・サービス業
総合

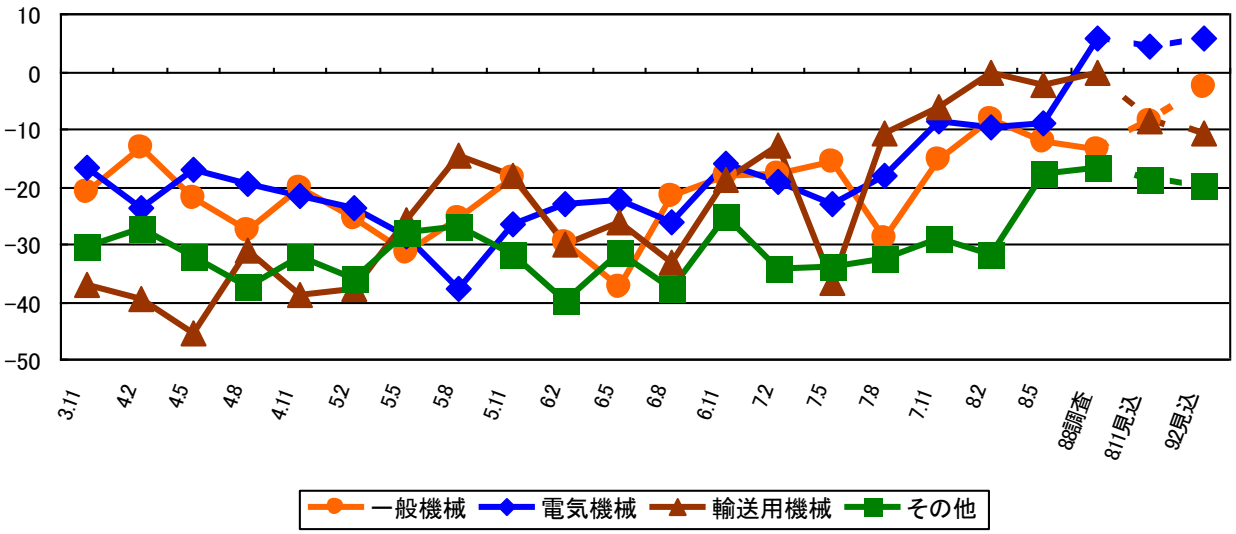

60
40
20
0
−20
−40
−60
−80
−100
3.11
42
45
48
4.11
52
55
58
5.11
62
65
68
6.11
72
75
78
7.11
82
85
88調査
卸売業
小売業
飲食店
サービス業

採算DIの推移

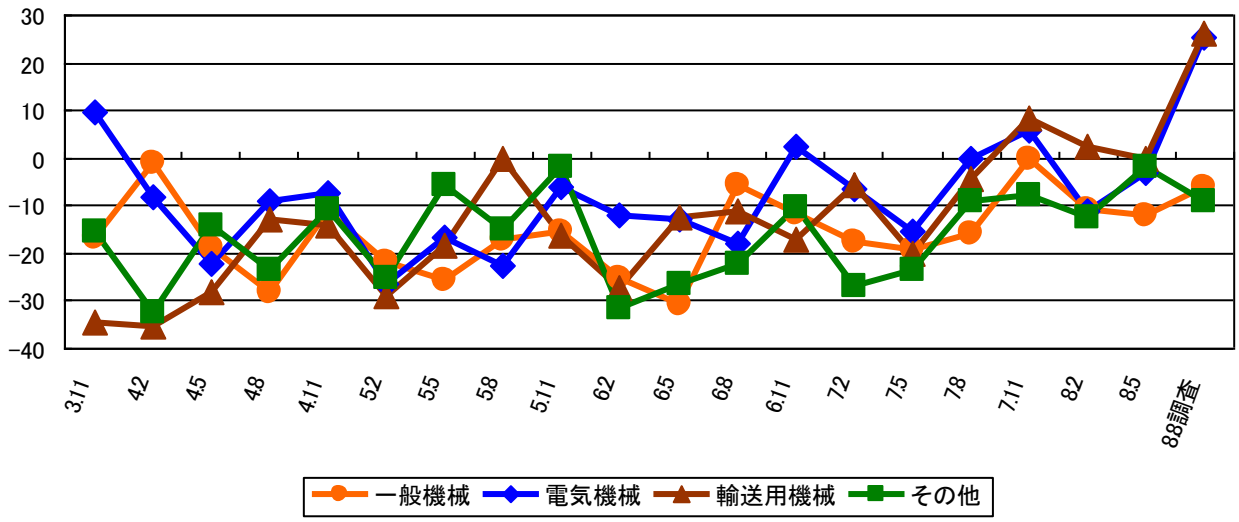

0
−5
−10
−15
−20
−25
−30
−35
−40
−45
−50
3.11
42
45
48
4.11
52
55
58
5.11
62
65
68
6.11
72
75
78
7.11
82
85
88調査
製造業
建設業
商業・サービス業
総合


0
−10
−20
−30
−40
−50
−60
−70
−80
3.11
42
45
48
4.11
52
55
58
5.11
62
65
68
6.11
72
75
78
7.11
82
85
88調査
卸売業
小売業
飲食店
サービス業

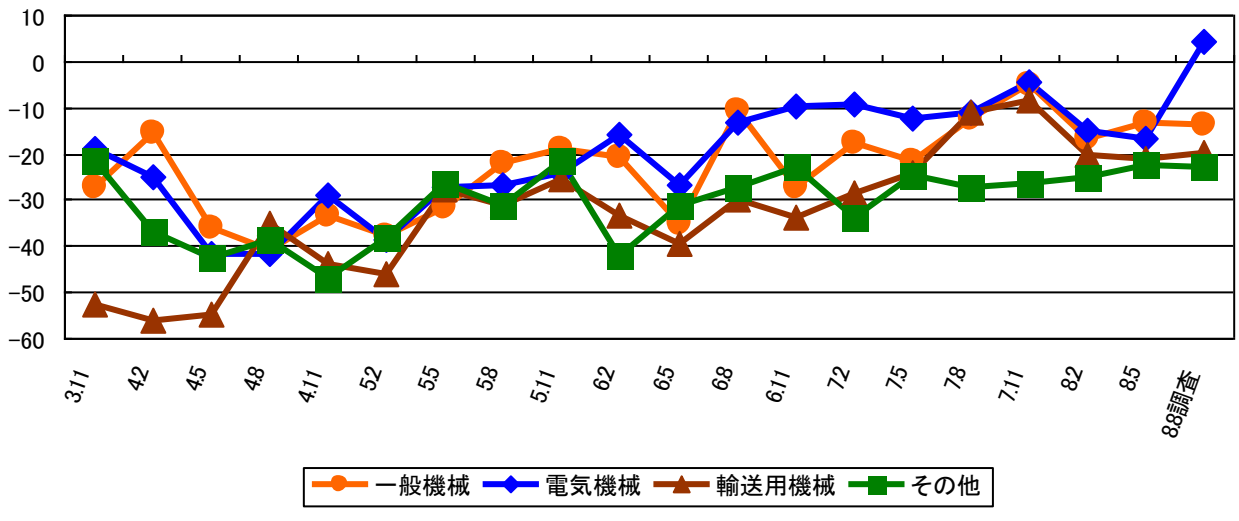
製造業（中分類）業況DIの推移



製造業（中分類）売上DIの推移



製造業（中分類）採算DIの推移



調査回答企業からのコメント（一部）

＜製造業＞

「現在の好調な受注は、半導体関連が牽引している一方で主材料の調達リードタイム延長にもつながっており、先の不透明さからの先行所要分も含んでいると推察され、得意先と同業の動向を注視している状況。」
「やや引き合いが活発化してきたが、景気回復の前ぶれなのか、見極めできない。」
「業績は伸びているが、人材不足が深刻。」
「直近は、売上・利益とも上振れしたが、相変わらず今後のことは不透明。」
「今年4月以降の業績は比較的良い。先の見通しも決して悪くはないが、過大な期待はできない。」
「2026年10月頃にかけ、受注増加傾向です。そのために機械等入れ替え、導入等準備を進めながら、生産・出荷対応しています。」
「原油の影響・人件費の高騰など、不安要素が多くあります。」
「飲食関係は、コロナ禍も色々な面で免除や助けがあったが、中小企業はみな日々必死に働いて倒産させないようにと頑張っている。このいまの世の中、中小企業にも何か支えがあってもよいかと思う。中小企業は、自分が体調悪くても休むことができず、人を入れればそれなりに経費もかかる。皆、先の見通しに不安を抱えている。」
「高騰する材料代や人件費等を価格転嫁できていない。」
「前期は材料価格も高騰して材料不足により売上、利益が減少した。徐々に材料不足も回復しているがまだ先行きが見えない状態。」
「価格転嫁に関しては、以前よりは顧客に話しやすくなっているが、受注販売の業態で、競合他社も存在するため、見積で負けると失注するケースも出てきている。」
「ここ数年低調だった顧客の国内需要が買い替え期を迎えて好調になっている。人員も適正な補強ができ理想的な受注と労働力のバランスとなっている。」
「新しい取引先について、9月以降納入スタートの予兆。人材不足について、募集に費用を必要とすることをどう思うか。人材紹介会社の手数料が中小企業の足かせになっている。」
「２月までは前年比増収ながら3月から7月までは逆に減収、8月以降はまた受注が順調に増加。」
「メインユーザー様の生産量増加に伴い、受注量が増える傾向にあります。これは当面継続する見込みです。」
「半導体関連が需要増加しています。」
「輸入業のため、円安が大きく響いている。」

＜建設業＞

「官庁工事が順調に受注出来ているので今年度は良いと思います。」
「若年者の採用がなく、高齢者ばかりでこの先、不安。」
「材料等、人件費も上乗せして販売ができている。不採算の顧客は断ってしまいました。」
「材料入荷が遅れるので、作業が進まない。」
「消費税納税で資金繰りが悪化した。」
「足元の状況は堅調、ただし若干慎重に見ている情勢であるが、中東情勢の影響による部材流通が抜本的に改善されていない点、資材価格等の高騰、人件費の高騰、監督人材不足などのマイナス要素が相まって、先行きはより慎重に見ざるを得ない。」
「原材料やガソリン価格高騰、賃金上昇圧力などで先が見通せない。公共工事の受注の見通しが難しい。」
「資材の値上げ及び、入荷の予定が立たず、工事の受注に影響をきたし、調整が必要で苦しい。」
「今後についても良好。」
「受注はおおむね安定しておりますが、資材費や人件費の上昇、人手不足が経営上の課題となっています。今後は人材の確保・育成を進めるとともに、安全管理と作業効率の向上に取り組み、安定した受注と業績の維持を図ってます。」
「人員不足、材料不足等により、引き合い件数が増加傾向だが、供給能力が追いつかない。材料単価の高騰及び納期等に目途が立たないため、工事受注案件の検討が必要となっている。」

＜卸売業＞

「取引先の設備(更新、メンテ)が伸びている。」
「積極的な営業活動の成果が出ている。また商品価格の値上がりも、業績の向上に寄与している。」
「昨年度に比べ大分売上高が増えてきました。本年5月迄は平均的でしたが6月7月はかなり受注が増えて、売上高も増大しました。8月からの受注がどうなるかですが、従来通り11月12月は年の一番の繁忙期になりますので、本年度は利益が出るようにあと５ヶ月頑張りたいと思います。」
「イラン情勢の影響で、材料不足と価格高騰が続いています。中東情勢が収まるまでは、このような状況が続くと思います。」
「円安で仕入価格が高くなり、客数は変わらないが、客単価が下がって売上が減っている。物価高が今後も続くと思う。」
「ナフサ関連の商品が多く、現段階で偏り在庫になっていて、在庫が多すぎたり、足りなかったりで、非常にバランスが悪い。」
「露地栽培の野菜を扱っているので、現在の異常気象の影響が売り上げに大きく左右される。」

調査回答企業からのコメント（一部）

＜小売業＞

「工事の依頼があっても、品物が入荷しない。8月受注分が11月からの入荷になり、入荷日も決まっていない。とても不安です。」
「昨年度に比べて酷暑の毎日ということもあり観光客が外に出て歩かない。当然、売上も減少し厳しい毎日です。観光地のホテル旅館も夏休みだからいっぱいというわけではなく、このままでは商売もなかなか難しいです。」
「ネット販売の不調が業績に影響している。夏の各地の酷暑や災害などマインドが低下しているのか。実店舗は、かなとくキャンペーンの効果は少なからずあるので、このような行政の支援を今後も期待したい。」
「顧客数減少。仕入れコスト高で、売上も不足。利益率減。」
「「プレミアム付き商品券」にしろ「かなトク」にしろそれを活用できるお客様には多少の効果はあるが、そもそもそれらの施策をご存じない方が多い。もっとPRするべき。これらの施策、われわれ取り扱う小売り事業者にも恩恵があってもよいのでは。プレミアム商品券を購入して販売して、利用していただいて、換金してと、、、大変です。かなトクも利用店舗にもポイントが付与されるようなことってないですよね。あってもよいと思うのですが。」
「天候不順、例年になく雨が多く、その割に気温が上がらない等の理由により、例年売れている冷感商品等の動きが悪い。特に路面店は益々雨に弱くなった。」
「商品の値上げ等によりお客様の買い渋りがあるように思う。少しでも買い上げ個数を増やせる様に、努力したい。」
「すべての取り扱い品のコストが高騰、6月末より主販売品の価格改定により駆け込み受注が顕著となり、これから今年後半にかけての動向を心配しながら注視しております。」
「度重なる仕入価格の値上げによって、収益が悪化している。」
「商品価格値上げにより、商品のランクダウンが起きている。」
「物価高騰が販売価格にも反映されて業績は厳しい。顧客の購入意欲も低迷している。」
「最低賃金の上昇、ナフサ関連による消耗品の大幅値上げ。更に原材料高騰が非常に厳しくのしかかります。ここ7年のうち、6回の値上げをしておりますが、値上げしづらい状況になりましたので、値上げの影響を余り受けない、コラボ等に尽力しています。」
「店舗を展開したため売上・利益共に向上したが既存店は売上低下気味。人材も不足、仕入れも不足している。」
「仕入れ価格高騰により販売価格の転嫁が遅れている。多品種のため、９月よりほぼ各種商品の値上げができました。」

＜飲食店＞

「7月後半から昼間の暑さで、お客様があまり出てこない。何でも値上がりで、やっていけない。」
「いろいろな機械が壊れて資金繰りが厳しい。」
「人手の不足で、売上が伸びない。」
「仕入れ高の高騰と人件費の高騰を価格転嫁することが頻繁になり、客離れが心配です。」
「肉、酒、その他、値上げが止まらないので、見通しが立たない。」
「順調ではあるが、来春にもう一園開園予定の為の出費があり、前年度よりは資金の余裕は少ない。」
「売上があっても、仕入が高くて利益が出ない。」
「業績において、近年の物価高の影響もあり売上高と経費とのバランスが良くはないので、売価の見直し等を見直す必要がある。又、人員確保に注力しながら今後の見通しを立てる必要がある。」
「材料費、人件費を抑えるためにどうするかを日々悩んでいます。」
「季節需要の違いで4～6月期より7～9月期の売り上げは上がっています。原価の高騰、人件費、社会保険料の増加を宿泊料の値上げに変換できず利益を圧迫しています。」
「現状大きな変動はないが、慢性的な人手不足。（正社員・パート共。）」
「今年の4月に価格改定をして、客単価、動員数も増えたため。売上増になった。仕入価格も増えてはいるが、売上増の効果で利益増にもなっている。」

＜サービス業＞

「商品の値上げなどで、負担に感じるお客様の足が遠のいている。」
「梅雨明け前からの近年の異常な暑さに客足は鈍っています。私自身も外に出たくないので、致し方ないかも知れません。」
「法人相手の値上げ交渉が、すべて終わって良かったです。」
「利益を増やすには、やはり燃料高熱費(重油、電気)が下がらないと、中々厳しいと思います。今後も下がる見込みが無いので・・。」
「中東情勢に振り回されている。戦争が終わらなければ開店休業状態。そんなに簡単に顧客を増やせるわけもなく非常に困っています。補助金が出るとありがたいのですが。」
「石油製品を輸送するタンカー会社です。中東情勢により、石油製品価格が高騰し、輸送量の減少および、タンカーの燃料価格も高騰しています。収支は悪化しています。」
「福祉事業利用者の日常生活費全般や消耗品類の調達について、物価高騰による経費増大が変わらず続いている。」